

この『予習シリーズ演習問題集 国語』は、『予習シリーズ』に準拠した問題集で、予習シリーズで学習したあと、学習内容をさらに定着させるように作られています。

### ●各回の構成

#### ○出題文章について

『予習シリーズ』の読解テーマ(学習課題)に対応した、『予習シリーズ』基本問題と同等か、やや難度の高い文章を出題しています。

#### ○設問について

予習シリーズと同様、選択問題、ぬき出し、記述問題をバランスよく配置しています。答えのヒントはすべて文章中にあります。問われた部分に対応する内容や表現が文章中のどこに書かれているかを発見し、その内容を理解するトレーニングをします。

### ●総合回

予習シリーズと同じく、5回に1回程度、復習のための『総合回』があります。『総合回』の問題は通常回と異なり2文章になりますが、難度の差は設けていませんので、両方の文章にチャレンジしてください。

### ●解答と解説

問題を解いたら必ず答え合わせをしましょう。選択問題は、なぜそれが正解なのかを説明できなくてはなりません。自信がなければ、正解した問題でも解説を読んで、他の選択肢が×になる理由を確認しておきましょう。記述問題は、模範解答と同じ解答要素をおさえていれば、別の言葉で表現してもまちがいではありません、模範解答と答案を見くらべ、過不足がないか確認しましょう。

## 目次

第1回	物語・小説(1)	出会いと別れ	4	第10回	随筆文(3)	記憶と人生	52
第2回	物語・小説(2)	個性と高藤	9	第11回	物語・小説(4)	家族と友人	55
第3回	説明文・論説文(1)	自然と環境	15	第12回	説明文・論説文(3)	暮らしとテクノロジー	59
第4回	説明文・論説文(2)	科学と文明	19	第13回	説明文・論説文(4)	人間と社会	62
第5回	総合		23	第14回	総合		66
第6回	随筆文(1)	日本と世界	31	第15回	詩・短歌・俳句		74
第7回	随筆文(2)	言葉と生活	35	第16回	説明文・論説文(5)	日本語と私	78
第8回	物語・小説(3)	挫折と再生	38	第17回	物語・小説(5)	生と死	82
第9回	総合		43	第18回	総合		87

## 第1回

## 物語・小説(1) 出会いと別れ

◆次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

秋も深まったある日。忘れられないあの日。

その日は朝から予感があった。下校時までに決心しそうな気がしたし、<sup>①</sup>決心したらソフイーにいつてそのことをいかなければ気が済まないだろうというのも分かっていて。

悩み始めたのはいつの頃かだったんだらう。夏休みの前からだというのは確かだ。夏休みに予備校の夏期講習に通っている時にはもう十分に悩んでいた。

長い間悩んでいたけど、なぜかその日は、今日が決心する日だという気がした。

朝、いつものようにカナダ通りでベーカリーのおじさんや、喫茶店のおじさん、それに沙織さんと挨拶を交わし、カナダ国旗を見上げ、学校まで歩いている間中ずっと考えた。授業中もずっと考え続けた。最終的な結論は出なかったけど、その前の結論は出た。帰りにカナダ国旗を見て決心したらソフイーに寄ろうって。

下校時になり、学校を飛び出した。急ぎ足でカナダ通りを目指した。<sup>②</sup>早足になった。

カナダ通りで小さなカナダ国旗を見上げた。さわやかに澄んだ秋の青空に、国旗の真ん中の赤いカエデの葉が元気にはためいていた。フレー、フレー……。

そういつてはためいているように見えた。よし。決めた。

業して、いつか沙織さんのようにおいしいケーキとシヨコラを作れるようになりたいんです。何でもやりますから、一生懸命頑張りますから、私を使ってください。お願いします」

勢い込んで、早口で一気に入ってしまった。沙織さんは何もいわなかった。微笑してじっと私を見ていた。

「お願いします。本当に一生懸命頑張りますから、私を使ってください」

必死だった。自分の一生の大事なことを、生まれて初めて自分自身で決めたのだから、本当に必死だった。他のケーキ屋さんで修業することは考えられなかった。大好きなカナダ通りの、大好きなケーキを作る沙織さんの下で修業したかった。

「やっぱりあなただった」

<sup>⑤</sup>沙織さんの微笑している目から、涙がすうっと流れた。どうして沙織さんが泣くのか不思議だった。

「初めて由里絵さんに出会って、それでウインドーガラスからのぞいている由里絵さんを目にした時に、きっとあなたじゃないかって思った」

沙織さんが何をいいたいのかわからなかった。私はただ黙って沙織さんを見つめていた。

「初めて私のケーキを食べてくれた時に、やっぱりあなただって確信した。いつかお店に余裕がきたら、一緒に働いてくれて、それで私たちのケーキとシヨコラ作りを受け継いでくれる人が現れるって、厚志さんとずっと話していたの。それまで二人で頑張ろうって。それで由里絵さんが現れた時に、ああ、この人かもしれないって、そう思ったの。でも私たちの方からはいわないように決めてた。あなたの大事な将来のことだから、自分から本当にこの店で働きたいと思っ

決心した。真つ直ぐにソフイーへ飛び込んだ。

「お帰りなさい」

沙織さんはケーキを買いにきたちよっと太めのおばさんを接客中だった。それでも声をかけてくれた。

「ただいまです……」

「いま話していた高校生って、彼女なんですよ」

沙織さんはお客さんに行った。

「あら、まあ。毎日F高まで一時間四十分もかけて歩いて通っているですって？」

おばさんは私をジロジロ見回していった。

「あ、はい」

「だからそんなにスタイルがよくなったんですって？」

「え？ 私がですか？」

びっくりした。ポカンとして沙織さんを見た。沙織さんは笑って私を見ていた。

「じゃあ沙織さんという通り、やっぱり歩くのが一番ね。でもだね。ここのケーキおいしいから、いっぱい食べちゃうんだもん、<sup>①</sup>歩いててもダイエツトできそうにないもの。じゃあ」

「いつもありがとうございます」

沙織さんはクスツと笑って明るく声をかけた。

「お茶する時間ある？」

おばさんが店を出ていくと沙織さんがいった。

「お願いがあつてきたんです」

<sup>③</sup>顔が強張って硬い口調になってしまった。

「どうしたの、かしこまって」

「あの、高校を卒業したら、ソフイーで働きたいんです。ちゃんと修

くれて、ケーキとシヨコラを作りたいって思ってくれなければ不幸になるから。でも<sup>②</sup>秋になって、由里絵さんには由里絵さんの決めた違う将来があるんだつてあきらめてた。だからこの店で修業したいっていつてくれて、とつてもうれい。でも楽しい仕事だけど、ラクではないのよ」

「ちゃんと考えて決心したんです。お願いします。一生懸命やりますから」

必死だったけど、すごくうれしかった。不思議に泣かなかった。必死だったので泣くなんてことまで意識が回らなかったのかもしれない。

「ありがどう、由里絵さん」

「沙織さんがありがどうつていうのは変です。私がいうことですから」

「精一杯頑張るけど、お給料、そんなに出不せないかもしれないけど、いいの？」

沙織さんが涙を手で拭いながら笑った。<sup>④</sup>ものすごく美人の笑顔と、ものすごく荒れた手がアンバランスで、でもそれがすごく素敵だった。

「働かせていただけるならお給料なんて！ あ、でも、やっぱり、少しでもいいですから、ほいす……」

沙織さんは声に出さずに明るく笑ってから、工房のドアを開けて厚志さんと呼んだ。

玄関に真新しいスニーカーが揃えてあった。卒業式には新しいスニーカーで行きなさいと、お祝いに母が買ってくれた。

私もそのつもりでいたのだけれど、<sup>⑦</sup>玄関の間に小さくなっている履き古しのスニーカーを見たら考えが変わった。

「じゃあ気をつけていくなだよ。お母さんはあとから電車で行って、校門の所で待っているからね」

母が玄関に見送りにやってきていった。

私は母を振り向いていった。  
「お母さん、新しいスニーカー、ありがとう。でも最後だから、やっぱりいままでのやつ履いてってやりたい。新しいスニーカーは明日からの初出勤に履いていくから」

「卒業式なんだよ。あんなボロボロのでもいいの？」

「うん。一緒に頑張ったんだから、卒業式にも履いてってやりたい」

「そうだね。あなたの好きにしたらいいよ」

母は珍しく笑っていった。

古いスニーカーを履いて家を出た。ブレザーも、ブラウスのリボンも、チェックのスカートも、古いスニーカーも、今日でお終い。最後の通学。

いつもの道を通って、まずはもちろんカナダ通りへ。太陽はまだ顔を出したばかりで、朝の冷気が気持ちいい。卒業式なので、気分が高揚している。だから景色がいつもと違って輝いて見える。

カナダ通りもそうだった。⑧ いつもとはやっぱり違う。

「おはよう。卒業おめでとう」

「おはよう。今日で最後だな。よくがんばったな」

ベーカリーのおじさんと、喫茶店のおじさんの挨拶もいつもと違っていた。

「おはよう。いつてらっしゃい」

沙織さんはいつもと同じだった。

「おはようございます。いつてきます」

「帰りはどうするの？ お家の人とどこかにいくの？」

でもやっぱり違っていった。

「いいえ。ちゃんとカナダ通りを歩いて帰ります。そうじゃないとゴールしたってことにならないから」

125

のようなことの決心ですか。文章中の言葉を使って六十字以内で  
答えなさい。

問三 —— 線② 「早足になった」とありますが、それはなぜですか。

最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア できるだけ早くカナダ通りに行って、大好きなソフィーのケーキを食べたかったから。

イ ついに自分の将来の方向を決めると思うと、はやる気持ちをおさえられなくなったから。

ウ 一刻も早くソフィーに行つて、沙織さんに自分の気持ちを伝え、安心させたかったから。

エ いつまでも悩みを解決できないことからくる、重苦しい気分になえられなくなったから。

問四 —— 線③ 「顔が強張って硬い口調になってしまった」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを次から選び、記号で  
答えなさい。

ア 自分の決意が固いものであるということを伝えたかったから。

イ まじめな態度をとらないと雇ってもらえないと思つたから。

ウ 自分のことを他人に話していた沙織さんに反感を覚えたから。

エ 重大な決意を打ち明ける時が来て、ひどく緊張していたから。

問五 —— 線④ 「やっぱりあなただった」とありますが、どういうことですか。次の□にあてはまる言葉を文章中から四十字以内  
でさがし、はじめと終わりの三字をぬき出して答えなさい。

・ やっぱり由里絵が、□四十字以内□だったのだということ。

「そう。よかった。お店に寄つてね。厚志さんがささやかな卒業パーティーをやるうって。といても、いつもと同じで紅茶を飲んでケーキを食べるだけだ」

「はい。うれいんです。いつてきます」

少し先まで歩いてからカナダ国旗を見上げた。風がないので垂れ下がっていて、朝日を浴びて気持ちよさそうだった。三年間、ずっと私を見守ってくれたカナダ通りのシンボル。□ \* □ 心  
の中で語りかけた。

家を出てから一時間四十分後、学校に到着した。ゆっくり歩こうと思つていたのにも同じになってしまった。

角を曲がって校門が見えた時、⑨ 心がふわつと軽くなった。何だかうれしくなった。歩いて片道一時間四十分。無遅刻無欠席。高校生活の、自分だけの記念がやつと完成した。□ 3 □ 帰りの歩きが残っているけど、やり遂げた気分だった。

焼きたての \* スフレ。ふわつと軽くなった心はそんな気分だった。

(川上健一「カナダ通り」(『透明約束』所収)より)

\* スフレ…泡立てた卵白と他の材料を混ぜ合わせ、オーブンで焼いて、ふくらませた菓子・料理。

140

問一 —— 1 □ 3 □ にはまる言葉を次から選び、それぞれ記号  
で答えなさい。

ア いきなり イ まだ ウ いくら エ もう

オ 感動 カ 得意

問二 —— 線① 「決心したらソフィーにいつてそのことをいわなければ気が済まないだろう」とありますが、「決心」とは具体的にど

うことをいふのでしょうか。理由を説明した次の文の□ A □ B □ にあてはまる言葉を、後のア～オからそれぞれ選

び、記号で答えなさい。

問六 —— 線⑤ 「沙織さんの微笑している目から、涙がすうつと流れた」とありますが、この時の沙織さんの気持ちとして適切なものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 悲しみ イ 怒り ウ 喜び エ 期待

オ 感動 カ 得意

問七 —— 線⑥ 「ものすごく美人の笑顔と、ものすごく荒れた手がアンバランスで、でもそれがすごく素敵だった」とありますが、「私」がそのように感じたのはなぜですか。理由を説明した次の文の□ A □ B □ にあてはまる言葉を、後のア～オからそれぞれ選

び、記号で答えなさい。

・ 沙織さんの荒れた手から□ A □ が伝わってきた一方で、美しい笑顔からは、□ B □ がうかがえたから。

ア ケーキやシヨコラ作りに対する、独自のこだわり

イ 日々のつらさを周りの人に感じさせない、優しい配慮

ウ 自分を必要以上に飾りたてようと思わない、素朴な人柄

エ 仕事に対してつらさを感じない、明るく楽天的な様子

オ 職人として苦労や努力を重ねる、ひたむきな姿勢

問八 —— 線⑦ 「玄関の隅に小さくなっている履き古しのスニーカーを見たとき、考えが変わった」とありますが、「私」は「履き古しのスニーカー」を見て、どうしたいと思つたのですか。なぜそう思

つたのがわかるように、文章中の言葉を使って、四十五字以内で答えなさい。

・ やっぱり由里絵が、□四十字以内□だったのだということ。

100

105

110

115

120

125

130

135

問九 — 線⑧ 「いつもとはやっぱり違ちがう」とありますが、その理由を説明した一文を文章中からさがし、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

問十 \* にあてはまる言葉として最も適切てきせつなものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 今までおつかれさま、もうこれでお別れだね

イ おはよう、明日の朝に、また会おうね

ウ ありがとう、これからもずっとそこにいてね

エ 今日はいいい天気だね、行ってきます

問十一 — 線⑨ 「心がふわっと軽くなった」とありますが、

1 この気持ちを「私」は何にたとえていますか。文章中から十字以内でさがし、ぬき出して答えなさい。

2 この気持ちを次のようにまとめました。A・Bにあてはまる言葉を文章中からそれぞれ指定の字数でさがし、ぬき出して答えなさい。また、Cにあてはまる言葉として最も適切なものを後のア〜エから選び、記号で答えなさい。

・長い間悩なやんでいたことに対して答えが出せた喜びと、高校三年間、A 六字で、片道B 六字もかけて歩いて通学し続けたというCで、心躍おどるような気持ち。

ア 脱力感      イ 達成感      ウ 責任感

エ 優越感

問十二 本文を大きく二つに分ける場合、後半はどこからになりますか。後半部分のはじめの五字をぬき出して答えなさい。